

# 地球のために私たちができること

## — “発電”による社会貢献プロジェクト



屋根に設置された太陽光パネル

豊田通商における社会貢献は、「人・社会・地球との共存共栄をはかり、豊かな社会づくりに貢献する価値創造企業を目指す」という当社の企業理念に基づき、「教育(人)・福祉(社会)・環境(地球)」の3つを重点テーマに掲げ、「豊かな社会づくり」への貢献を目的とした活動を展開している。

社会貢献の輪は世界中に広がっているが、本稿ではその中から“発電”に関する2つのプロジェクトを紹介したい。

### 無電化村解消プロジェクト

#### —インドネシア、バングラデシュ

地球にはまだ電気の通っていない地域が数多くある。NPO 法人プラネットファイナンスは、貧困削減と貧困層の自活のためにさまざまなマイクロファイナンスを展開しているが、そのプロ



現地の人たちに技術指導

ジェクトの1つに「無電化村解消プロジェクト」がある。これは、インドネシアおよびバングラデシュの非電化地域で、マイクロファイナンスを活用して太陽光発電を導入し、新しいエネルギーによって貧困層の生活向

上と貧困家庭の自立のためのさまざまなビジネスを支援するものである。当社はその主旨に賛同して日本企業として初めてプロジェクトに参加し、2008年度からサポートを開始した。

日のあたる場所と太陽光パネルがあれば、その村に蛍光灯がともし夜も明るくなる。しかし、太陽光発電に必要な太陽光パネルは国が助成してくれるが、パネルがあるだけでは電力は生まれない。実際に発電させるにはパネルの設置やメンテナンスが必要だが、現地にはその技術力がない。それらの設置技術や使い方、メンテナンス方法を現地の人たちにゼロから習得してもらうためには一定の教育が必要となる。そこで当社は、教育のためのビデオやテキスト作成の費用をプラネットファイナンスに援助することにしたのである。

2008年12月には、日本や現地駐在員事務所からも当社の社員が現地に赴き、据え付け作業やトレーニングの現地視察をおこない、NPOの現地担当や、利用者である住民の話にも耳を傾けた。現在も各地の無電化村で、これらのビデオや教材を使って太陽光発電システムの導入を進めているが、将来的には電化による小規模事業（電気店の開業や電気を使った小規模ビジネスなど）の発展につなげ、BOPビジネスとして現地の人



無電化村の子どもたちと当社社員

たちが自立できるよう支援を続けていきたいと考えている。

同じ無電化村の解消という主旨で進める新しいプロジェクトとして、アフリカ・ベナンでのバイオマス発電のサポートを本年より始めた。これは、ジェットロファという植物を栽培し、その種子から取れるオイルをディーゼル発電機の燃料として活用して電化につなげようというもので、当社はこのシステムの設置やメンテナンスのトレーニングに関する費用をプラネットファイナンスに支援している。手法は異なるが、地域の特性に合ったかたちで電化を進め地域の生活向上を目指すことは、両プロジェクトに共通する私たちの願いである。



小学校の前景と授業風景

## 発電所プロジェクトと地域貢献 ーパキスタン

当社は事業の1つとして、フィリピン、パキスタン、インドネシアなどでIPP（卸電力事業）を展開している。たとえばパキスタンでは、グループ会社のKEL社（Kohinoor Energy Limited）が1997年にインドとの国境に近いパキスタン第2の都市ラホール（人口500万人）に火力発電所を建設し、発電事業を開始した。電力需要が年率6%で増加し慢性的な電力不足に悩む同地で、1日当たり1万2000軒に相当する安定的な電力を供給し「電力事業」として現地社会に貢献を続けている。



無料診療所と多くの患者であふれる待合室

さらにKEL社は単なるビジネスのみにとどまらず、同社の事業を支えてくれている地域社会への貢献ができないだろうかと考え、まだまだ不十分な教育と医療の分野での社会貢献を通じて利益還元をすることを決断した。

こうして2004年には無料で自由に診療を受けられる診療所を開設し、さらに2006年には、制服や教科書を子どもたちに無償で提供する小学校を設置した。開設した無料診療所には1日当たり100人を超える患者が訪れ、地元の人たちからも多くの感謝の声が寄せられている。また、無就学児童も多く文盲率が60%を超えるとも言われているパキスタンで、まだまだ小さな規模ではあるが、設置した小学校で子どもたちが学ぶことにより地域の教育水準が少しでも上がり、子どもたちの明るい未来につながることを期待している。

\*

私たちは、世界の人々の明るい未来づくりと美しい地球を守り続けることを常に念頭に置きながら、事業そのものや社会貢献のさまざまなグローバル活動を通じて、豊かで持続可能な社会づくりに貢献できるよう今後も幅広い活動を続けていきたいと考えている。

### ◆豊田通商の社会貢献活動

<http://www.toyota-tsusho.com/csr/social/index.html>